
ween in the 2009 theme 東方罪務葬～crime of after

台風X号

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

east Halloween in the 2009 theme 東方罪務葬〜crime of after

【Nコード】

N4306I

【作者名】

台風X号

【あらすじ】

罪務葬それは、罪を犯している者を葬る者達の、熱き戦いをかき集めたものである。

プロローグ 説明の式千九（前書き）

スタートとなりました。新たな小説です。

プロローグ 説明の式千九

この小説はオリジナルキャラクターが繰り広げた列伝だけを集めた誰でも納得は、行く物語である。

東方罪務葬とは、みんなから善業のように思えた行動が罪深き行動となりそれをつぶす者が罪務葬と呼ばれている。

さて、ストーリーの展開を知ってもらいたい。

此の東方罪務葬は、一つのお話が完結型になっている。

stage1のお話では、闇隠れの里に関することを、綴る。

stage2では、トウダイグサ・スカーレット大佐に関することを綴る。

s t a g e 3では、アンゴルⅡ水素に関することを綴る。

s t a g e 4では、セルインジー・キリストに関することを綴る。

l a s t s t a g eでは、サイエレンスに関することを綴る。

エピローグでは、まとめとなる。

彼等は、何のために、罪務葬を繰り広げていたのか？

其の真相が、開かされる。

「何やら凄い展開になりそうだ。」

プロローグ 説明の式千九（後書き）

ブログも見に来て下さい、あと、この小説は少しでも影響します。
東方とナルトに

s t a g e 1

闇隠れの里の歴史→**うちはドルレインが闇影になるまで**→

うちはドルレインとうちはタグラと水銀ザクロの三人の歩みがわかります。

s t a g e 1

闇隠れの里の歴史―うちはドルレインが闇影になるまで―

ナルトの第一部開始の前、5年前にさかのぼる。

闇隠れ暁三人衆は、木の葉隠れを襲撃した。

九尾のことである。

しかし、バレることはなかった。

闇隠れの里は、日差しが強かった。二代目までは、こんなことがなかった。

三代目闇影の仕業だった。

暁の一人、ゼツは、三代目闇影は人柱力の可能性があると強く示した。

六尾の人柱力は、三代目闇影と知った闇隠れ曉三人衆。

速攻進み始めたが、そこにうちはドルレインも知るうちはマダラに出会った。

「イタチのやつが言っていた通り、マダラ無事だったのか。」

「六尾の人柱力は、闇影だ。」

闇隠れの里は、やはり日差しが強かった。

「三代目闇影の野郎、どうやら我々の里を滅ぼそうとしているんじゃないのか。」

水銀ザクロがそう言う。

「確かに、冥府に近い此の良い里を破壊するわけにいかない、タグ
ラもそう思うだろ。」

「そうだな、兄さん。」

「人柱力狩りは、我々の正義のために殺るぞ」

「よし」

「金属術偽露鎮」

門を破壊した。

「万華鏡写輪眼」

蒼い眼、ごく普通の万華鏡写輪眼とは違う突然変異した写輪眼。

そう逆の効果が現れてしまっている。

普通は、失明と死をもたらす危険な眼だが、此の眼は違う。

千里眼を与え、不老不死にするという眼である。

三代目闇影との対決が始まった。

「六尾は、暁の下で死ね。」

「時空狩り」

三代目闇影の上に、ザクロが。

「金属術冷酷惨殺葬」

三代目闇影の左肩と右肩から血が流れていた。

「闇隠れの里は、冥府に一番近い場所、そんな場所に太陽はいらない。そんな秩序を乱すようならば貴様を、狩ることだってできるのだからな。」

六尾が現れてしまった。

「狙い通りだぜ、兄さん。」

「ああ、あの崩壊し始めた闇を直す。」

「東照」

紫の雷が六尾の動きを封じた。

時空と時の流れが破壊されていた。

そうこれがうちはドルレインの禁じている幻術だ。

六尾は、次第に意識が無くなっていった。

しかし、三途がドルレインの幻術に気づいたのか、刀でドルレインの心臓を一突きした。

「やったか」

と思いきや

「お前にこの俺は倒せない。そんなことをしても死なないのだから。」

「東照」

三途と三代目闇影は、苦しんでいた。

ザクロが三代目闇影の足にナイフを50本突き刺した。

「六尾捕獲完了。」

三途はドルレインを殺そうとしたのだが・・・

右頬を深く切られた三途。

「闇影の剣を持っていることは、まさかお前。」

「四代目闇影うちはドルレインということだ。」

「三途よ、この三人が、暁に入ったなんて真っ赤な嘘。つまり三代目闇影の罪を許さなかった。つまり、三途よ、貴様は、闇隠れの里から永久追放だ。」

「そんなことをして許されるか」

「金属術死音刃好射」

四代目闇影うちはドルレインは、このような経緯で闇隠れの里の長となった。

闇隠れの里は、再び暗闇に包まれようとしていた。

「闇隠れはこんな感じでいいな、ねっ兄さん。」

「そうだな。」

うちはドルレインのテーマ曲 闇影として d a r k o f l
e a d e r

うちはタグラのテーマ曲 円陣の時空の様に漂え

水銀ザクロのテーマ曲 金属と蒼い真実 b l a c k b l o o
d d i e

s t a g e 1

闇隠れの里の歴史〜うちはドルレインが闇影になるまで〜

いきなり三人のオリジナルキャラクターが登場。しかも二人は同じ血継限界を持ち、一人は違う血継限界を持つんですよ。うちはドルレインは二つも血継限界持っています。

次回予告ですが、あのトウダイグサ・スカーレット大佐とナツトウダイ・スカーレット軍曹の軍人のスカーレットデビルコンビが登場します。

s t a g e 2

トウダイグサ・スカーレット大佐VS赤夜ナチス最終決戦

東方植物戦争記の最終回のネタばれになりそうな感じですが、あつちは、あつちで作るので少し宣伝があります後書きにて。

stage 2

トウダイグサ・スカーレット大佐VS赤夜ナチス最終決戦

植物平和連合軍は、数々のナチス科の敵と戦った。

闘いは、終わりに近づいた。

「大佐殿、ナチス科が要塞ごとこっちに向かってます。」

「迎撃の準備をしたまえ」

トウダイグサ・スカーレット大佐、彼は平和を作り出す程度の能力を持つ。彼は平和を穢されるのが嫌いで穢した者を見ると、気がふれてしまう。そのためか軍人よりも怖い殺戮方法で、平和穢した者を幾度も殺している。其の殺した者の血が軍服に付着することから、軍人のスカーレットデビルと呼ばれている。

どうやら彼は、前に殺した敵の血をワインにして飲んでいる。

「要塞がでかいな、変形システムまである。」

「大佐殿、敵のシステムを見てください。」

「システムがケタはずれだ。」

要塞弱点ポイント解析中・・・

error ? 六五式壱四参

弱点が読み取れません。

「なんてことだ、読み取れないだと。」

ナチス科の要塞は、構造不明である。

「迂闊に攻撃^{アタック}ができない。」

第一セットが変形した。

それ以降、どんどん、変形していった。

変形が終了したとき、大変な姿に変貌した。

「これでは勝てないぞ。」

軍事兵器の一つ一つが、破壊されていく中、

トウダイグサ・スカーレット大佐は、ある技を繰り出した。

「平和　そして誰もいなくなる？」

この弾幕は、命中した。

壊れゆく要塞から、逃げてきた、ナチス科が現れた。

トウダイグサ・スカーレット大佐は紫色の翼を広げた。

広げた翼の下端には、鋭い針みtainのがある。伸縮自在なためか、一気に攻めれる。

「和解　引き裂かれた平和」

ナチス科の軍隊は、一気に倒されていった。

「禁忌　おふざけは許さない」

「和親　殺した相手は戻らん」

二つの弾幕は、全てを破壊していった。

平和を導くにあまりに遠い技だろうか。

「平和
首のない平和」

赤夜ナチスが現れた。

「銀殺傷
消滅感懷」

「禁忌　クラウ・ソラス」

赤夜ナチスは苦しめられた。

トウダイグサ・スカーレット大佐は、之を機に攻撃できる体制となった。

「平和　ヘル・ピース・アワード・デストロイング」

星マークから四角が描かれそのあと丸が、そして三角が描かれた。それも無数に。

「何をする気だ。トウダイグサ・スカーレット」

「これで仕留める」

弾幕が赤夜ナチスを襲い始めた。

「加勢するぜ、大佐殿」

「ナツトウダイ・スカーレット軍曹か。」

「口論 仕業目の速さ去りて」

槍のような感じで弾幕が赤夜ナチスに襲い始めた。

「最強平和 平和穢したら殺す」

とんでもない弾幕が、ナチス科を全滅させた。

植物に平和が再び訪れた。

トウダイグサ・スカーレット大佐とナツトウダイ・スカーレット軍
曹は、紅魔館に向かった。

トウダイグサ・スカーレット大佐のテーマ曲 残酷的軍歌〜紅き平
和願望七条約〜

ナットウダイ・スカーレット軍曹のテーマ曲 速さも焦りもこの刹
那で

赤夜ナチスのテーマ曲 亡い者に云え 1
a l l K i l l
i s t 1
)

s t a g e 2

トウダイグサ・スカーレット大佐VS赤夜ナチス最終決戦

次回はアンゴルⅡ水素の切ない気持がついに明らかに
ってかトウダイグサ・スカーレット大佐は怖いな
ある意味フランよりも怖い。

s t a g e 3

冥府が作った最凶の剣くアンゴルⅡ水素の怒りが惑星を狂い

アンゴルⅡ水素の秘密が明らかに

stage 3

冥府が作った最凶の剣、アンゴルⅡ水素の怒りが惑星を狂い

アンゴル一族でいまいち行動範囲が狭い、アンゴルⅡ水素は友人のアンゴル一族がある惑星の罪を払いに行ってくると宣告し、その後連絡が取れない。

「何か、あったのだろうか。」

心配になったアンゴルⅡ水素はデータベースにアクセスした。

「なっ、そんな馬鹿な、あの惑星に俺の親友たちが殺されただと。」

あの惑星の名前は、サイコロシ星という惑星だった。

この惑星の住民は、他の異星人をサイコロで振った数だけ、殺すという酷い惑星だという。

その惑星に怒りをもったアンゴルⅡ水素は、その惑星を破壊したい気持ちがあった。

しかしその惑星は、異星人を殺すたび正当防衛として惑星の住民が喜んでしまうのである。

その時、

「魂魄になぜか渡ってしまっているこのルシファー・セイバーをアンゴルⅡ水素に託そう。」

「俺の名前を知っているのか？」

「冥府の剣に選ばれた者は、名がその剣に刻まれます。」

「それでわかったのか。」

「あなたは、惑星の罪をそれで斬り裂くがいい、そう己が怨む星たちを」

「拙者は、アンゴルⅡ水素これより、サイコロシ星を滅する。」

そして、サイコロシ星へ向かった。

「アングル一族の野郎が来たぞ殺れー」

「恨み度壱萬、霧鷺一閃」

サイコロシ星の大気の50%を奪った。

「次第につらくなってきたー」

「恨み度参萬、最塹壕菊斬」

住民は、切り裂かれそこらじゅうが血の海に

「拙者の友人を殺した罪を償え、恨み度九兆九千九百九拾九億九千九百九拾九萬九千九百九拾九、はるまげどんざん黙示録撃斬」

こうして彼の思いは、サイコロシ星を真っ二つにした。

今では、恨み度を使うことはなくなった。

「この日で、サイコロシ星の崩落15年か。」

一輪の花は、サイコロシ星のように汚されて跡形もなく消えた。

アンゴルⅡ水素のテーマ曲 惑星断罪破滅事
r r e l . j u d g e p l a n e t b a

s t a g e 4

罪消した神の子孫は罪を操る神様くセルインジー・キリストの

今回は少し切ないです。

stage 4

罪消した神の子孫は罪を操る神様〜セルインジー・キリストの

イエス・キリストが神になって早、6世紀も時は流れた。

その子孫が誕生した。その名はセルインジー・キリスト

彼はイエスとは違い、生き物が生まれながらにして持つ罪を自由に操る程度の能力を得ていた。

そのためか、ヤマザナドウが、困っていた。

セルインジー・キリストは、神としては天然な性格を持っていた。

「私には、罪を操り其れを楽しまなければならん。」

ある日、神々の大集会があった。そう宗教関係なく。

セルインジー・キリストは退屈な顔をしていた。

加菜子は新たな神を見た。

「あれがセルインジー・キリストか。」

セルインジー・キリストは十字架を下ろした。

「私のやり方は、何か不吉を呼びそうだ。」

ブラックカトリックの存在は誰もが知っている。

イエス・キリストが神となった五世紀後誕生した神的な魔物。

その魔物は、人の心を喰い尽くし自殺の道を選ばせるとんでもない魔神であつた。

「魔物の罪を、汚してみようかな。」

セルインジー・キリストは、その魔物に向かった。

魔物は、日本にいた。

「人の心を貪れば貪るほど、おいしい」

「そこまでだ、ブラックカトリック」

セルインジー・キリストが現れた。

「人の心、喰うな、死の鼓動を呼び覚ますな」

「意味わかんねーことを言ってるんじゃない」

「キリスト真拳奥義クライム・スコープ」

げんこんざい
嚴陣罪

「てめー、俺の罪を見やがったな」

「これより貴様の罪を書き換えて、弾幕にして貴様を葬る。」

「できねえーくせに」

「罪操 罪の進行は永遠に」

「なっ、やめろー」

ブラックカトリックは消えてなくなった。

「散らされた罪は消させるわけにはいかない、新キリストとしての責任を持つ。」

そして彼は闇幻想郷を作りそこにぬいぐるみみたいに可愛い生き物を生んだ。

しかしブラックカトリックは死んではいなかった。

そう、あの夜明頃と真実劇の異変を持たすことになるとは。

セルインジー・キリストのテーマ曲 罪操りし其の神 new
Christ god

ブラックカトリックのテーマ曲 人の心を食らい尽くす神 da
rkness devil god

s t a g e 4

罪消した神の子孫は罪を操る神様へセルインジー・キリストの

次回はついに最終回です。ご期待を

セルインジー・キリストって意外とすごいっていうことがわかりましたか？

エピソード stages

サイエレンスの裏切られた師匠／理数系の畏

サイエレンスの秘密があかされます。

エピソード stages

サイエレンスの裏切られた師匠〈理数系の畏

「まだお前は、理数系真拳の使い方が分かっておらんのだ」

サイエレンスは9歳だった。

その修業は10年の歳月が経った。

サイエレンスは19歳になったそして理数系真拳をうまく使えるようになった。

「理数系真拳極奥義零」

師匠が突然攻撃してきた。

サイエレンスは、よけたが攻撃は鋭かった。

そうコンパスだ。あのコンパスをとるためなら、たとえ人殺しでもしてみる。

しかしそれは、全部、師匠がやっていたこと。あのコンパスを壊さなければ。

しかし、師匠は技を切り裂いた。

「コンパスは、破壊できるもんなら、やってみろ」

「お前は、俺を利用した罪行師匠だ。」

「五月蠅い、クソが、理数系真拳奥義コサイン」

「理数系真拳超奥義太陽系の π 」

戦いは互角どちらも勝てない。

「お前が持つ、コンパスは、俺も持てるぜ」

コンパスを召喚した。

「馬鹿な、こいつは8もあるんだぞ。しかも理数系真拳の使い手ではない貴様が持てないはずじゃ？」

「俺は、理数系真拳の使い手だ！。理数系真拳究極奥義皆既日食」

「コンパスでガードしてやる」

師匠のコンパスは、サイエレンスのコンパスが貫いた。

「がハッ」

「お前の理数系真拳は俺が善業として使う。」

コンパスは、師匠の心臓を貫いていた。

サイエレンスにとっては、理数系真拳の理^{しんじつ}を知った。

「俺は、深紅を見すぎた、これからは闇の蒼夜^{あおぞら}を見る」

サイエレンスのテーマ曲

百年前のハジケを見せてやるぜ

どうでしたか、東方罪務葬は、おもしろかったですか？

サイエレンスやトウダイグサ・スカーレット大佐やうちはドルレインやアンゴルⅡ水素やセルインジー・キリストといった聞き覚えのあるオリキャラが続出しました。また、東方projectにも若干ながら影響していました。ナルトにもね。

では、感想よろしく願います。そして次回作は、ブログにて決まっております。

名前は、台風の如く現れて、severe tropical stormですので足を運んでみてください。URLはこちら
<http://euphorbiatypoons.blogspot.com/>です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4306i/>

east Halloween in the 2009 theme 東方罪務葬～crime of after
2010年10月10日19時28分発行